



今何ができる

「助けたかった申し訳ない。」と自分を責める特養老人ホームの職員。「いつまでこういう日が続くのかと考えもしたが、まずは今日生きるしかないのかと考え直して：。「先を見たって何も見えない。まずは今日」。胸の詰まる思いで記事を読みました。



横見町 吉田 当代さん

多くの人々の命や財産などをひとのみにした津波。何も手につかず、ただただテレビに釘づけられ、今何ができるのか自問自答の一週間。

私には家族が、友達が、私を必死としてくれる人がいる今を一生懸命生きることの大切さを学ばせていただきました。被災者と遠く

離れていても心は一つ。頑張ろう。

一日も早い復興を願って止まない。私が今できることは、被災地への義援金や物資を送る際に協力することくらい。それ故に、日常生活において節電に努め、物資の買占めなどをしてしないよう心掛けています。

そういえば、数年前にケニアの副環境大臣が来日された折、日本の「もったいない」という言葉に感動され、4R運動として世界に広められたことを思い出します。地球に優しい行動へも配慮しなければなりません。お買い物はマイバッグでと呼び掛けられている昨今です。レジ袋を断ることから始め、古新聞を利用しエコバッグ作りに挑戦して、世界に私だけのバッグ、すてきなバッグを提げてみませんか。

次は、富岡町の神田啓子さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭
短歌大会作品

蝉の声いのちをかけて誰を呼ぶ短かき夏を鳴きつくしおり
清崎 信枝

アプチロン猛暑の空に枝を広げ小さき風鈴朱に染めゆく
近藤 芙美

熱きコーヒー飲みつつひらく朝刊に所在不明の老人あまた
川口 節子

嫁の姿の見えない時「かあさんは」と問うていつしか吾老年なり
新居 久子

夕暮れの日照り続きの農の道サクサクサク土煙りたつ
清水 利子

除草剤撒きし草生に鈴虫の澄みし鈴の音身に染む夕べ
山西 成彬

白き花咲きたるように群がりて夕闇の中白鷺憩う
森 ゆき子

被災地の天空泳ぐ鯉のぼり

清原 眞治

振袖のごとくに枝垂桜かな

関山 和女

熊蜂と後先になる山路かな

神野 幸子

学校は水軍城趾青葉風

田中ゆり子

燕の巣そんなところに造っては

西岡 典子

流されつ凍海泳ぐ妊婦かな

稲原 秀美

亡国か福島原発かげろえり

佐野 極童

都踊り舞妓の点てる薄点前

神野千鶴子

猪鍋の猪は主の撃ちたると

勝瀬 千津

川柳

阿南川柳会
高木旬笑 選

鼻ぺチャが転んで自慢するおでこ

持木 寿栄

昔より今の時代は急ぎ足

佐野 智子

また今度飲みに行こうな口ばかり

岡本 福笑

身に覚えあるから出来るアドバイス

臣守 愛香

恋ごころ秘めてる胸が火と燃える

湯浅 三子

俳句

阿南市俳句連合会選

集団で車椅子来る花の下

皆谷 露女